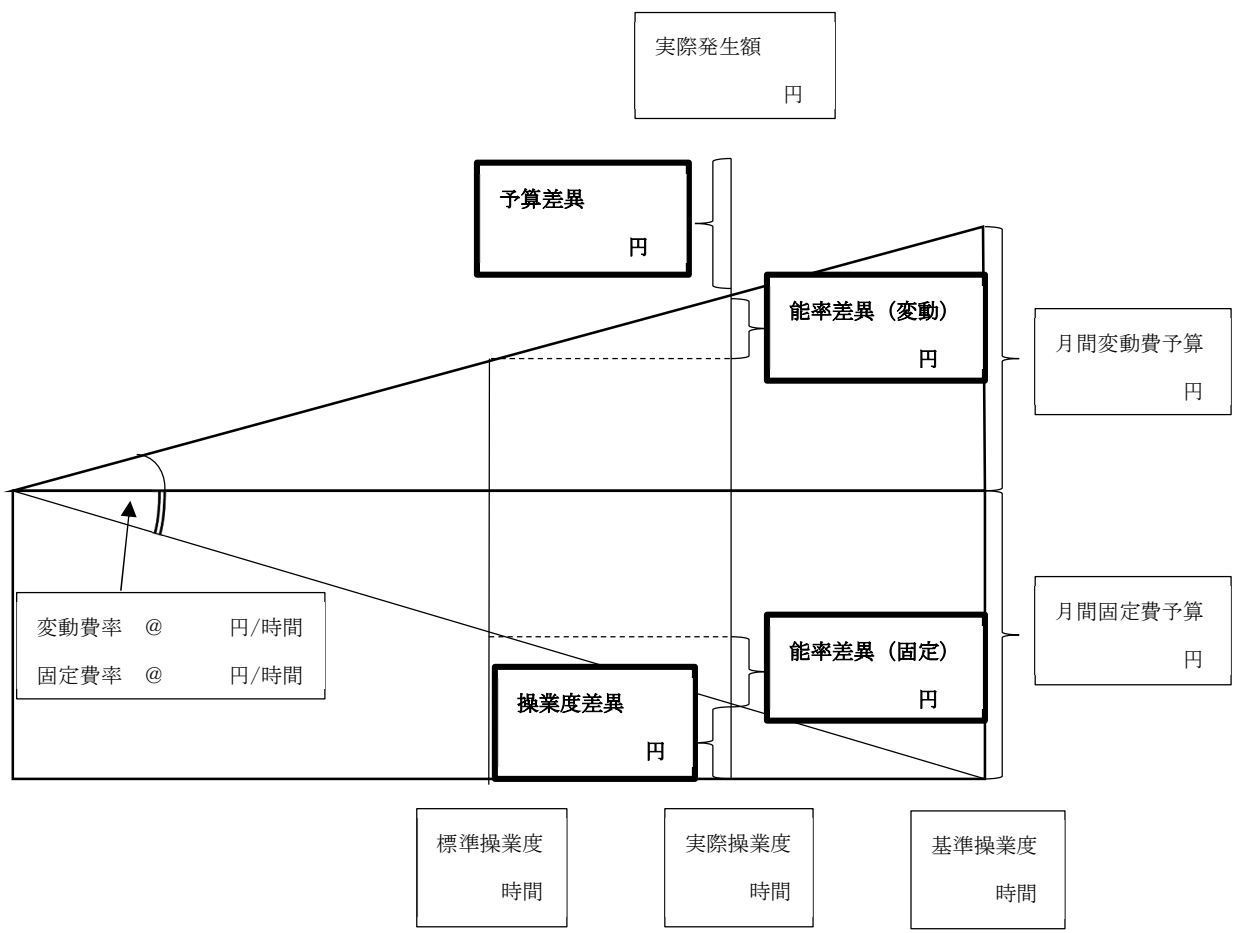
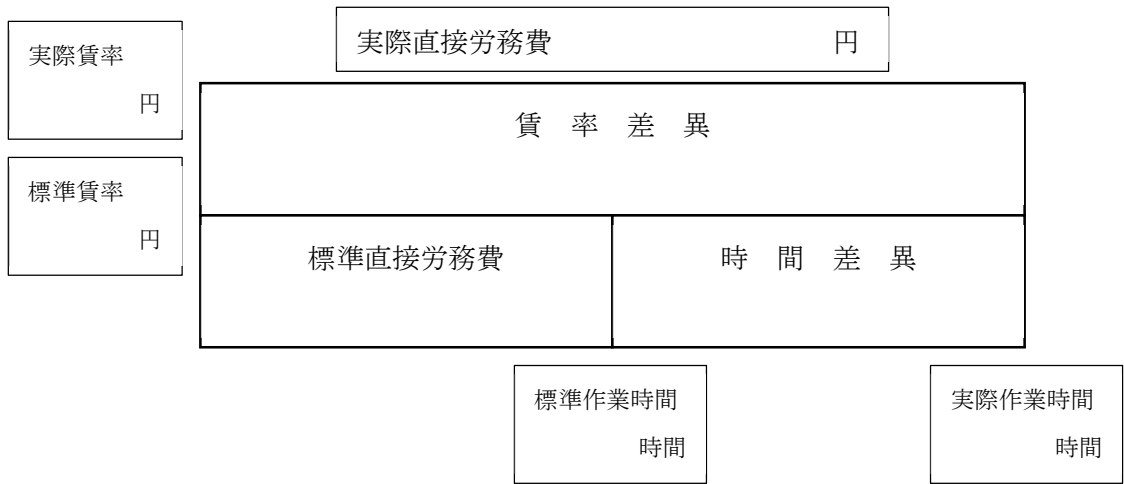


(直接労務費の差異分析表)



### パターンⅢ【仕掛品勘定、損益計算書】

C工場は、製品丁を製造し、直営店で販売している。原価計算の方法は、パーシャル・プランによる標準原価計算を採用している。次の【資料】にもとづいて、当月の仕掛品勘定および月次損益計算書を完成しなさい。

#### 【資料】

##### 1. 製品丁1個当たりの標準原価

直接材料費	1,500円/kg	×	0.3kg	450円
加工費	400円/時間	×	0.5時間	200円
製品丁1個当たりの標準原価				650円

##### 2. 当月の生産・販売データ

月初仕掛品	500個 (60%)	月初製品	600個
当月投入	<u>6,000個</u>	当月完成品	<u>5,900</u>
合計	6,500個	合計	6,500個
月末仕掛品	<u>400個 (50%)</u>	月末製品	<u>500</u>
当月完成品	<u><u>5,900個</u></u>	当月販売	<u><u>6,000個</u></u>

※材料はすべて工程の始点で投入しており、( )内は加工費の進捗度である。

##### 3. 当月の原価データ

###### 当月製造費用

直接材料費	2,660,000円
加工費	1,200,000円

###### 販売費及び一般管理費

給料賃金	2,500,000円
地代家賃	530,000円
水道光熱費	458,000円
その他経費	355,000円

##### 4. その他の条件

- (1) 製品丁の販売単価は1,800円である。
- (2) 標準原価差異は月ごとに損益計算に反映させており、その全額を売上原価に賦課する。

仕 掛 品

月 初 有 高 ( )	当 月 完 成 高 ( )
直 接 材 料 費 ( )	月 末 有 高 ( )
加 工 費 ( )	標 準 原 価 差 異 ( )

月次損益計算書(一部)

(単位:円)

I 売 上 高		( )
II 売 上 原 価		
月初製品棚卸高	( )	
当月製品製造原価	( )	
合 計	( )	
月末製品棚卸高	( )	
差 引	( )	
標準原価差異	( )	( )
売上総利益	( )	( )
III 販売費及び一般管理費	( )	( )
営業利益	( )	( )

## 参考メモ【仕掛品ボックス】

### 仕掛品－B材料費

月初有高		当月完成	
当月投入		月末有高	
原価差異		原価差異	

※原価差異は、どちらか一方に数字が入ります。

### 仕掛品－加工費

月初有高		当月完成	
当月投入		月末有高	
原価差異		原価差異	

※原価差異は、どちらか一方に数字が入ります。

【ボックスBパターン：実際の解答用】

仕掛品

月初有高		当月完成	
当月投入		月末有高	
原価差異		原価差異	

※原価差異は、どちらか一方に数字が入ります。